新板
清入

小野宣意药舟

二之巻

特別
13
3517
2

門ヘ
第 3517
号
2

昭和二十九年七月九日 購求

帝國圖書館藏

小弟公宣卿記

自筆

第一　裏打裡を乃る髪わくと境
武士のたましゐみぐさあふ和歌味
乃んとぐけ打供を冥土乃粉之見
たてゝ法ろまする和世和の之すゝ

武ゝ巻

第二　判官ゞ家紋みかた尼崎ゞ歌

六道の閻魔堂にてわらとさつひ
竈ゞ一腰ちりゞよい家をのん
そこのねうひたくころかんぐん

第三　唐人も金紙星月ゞわく釜

鍋石大王と名のりてもたろうゞは
芸精ゞはばやいてもゆうゞね大ぐうり
だまされゞ教いたまうゞね車の主殿

一　喜の喜とゞ尼ろ賢接境

男年花開く松枝ゞ匂い。伝兵衛ぐこ津に香しと園茶子
ゞ世しゞしゞふさる事でうしぱ。誉の執柱名字大ゞ人異接判ゞうんゞ
中二階ゞ。喜ゞさゞゞねてこうまゞ。情事せしゞ宝の境なんぺ。
こうく寝ゞ屋ゞ度わゞ月ゞ世ろけ。ゞさろゞゞ寝ゞろにん世ぞゞとゞる
さねゞ青しゞ。紙業のゞゞ事ゞくこうゞ事ゞ尼ゞ。ゞ年ゞ。ゞ
ゞんゞゞとたゞしゞでゞ月ゞ梅ゞ。ゞ月ゞ梅ゞの油ゞとゞゞしゞぱゞく祈いりゞこうゞを
ちゞんゞとゞの判官ゞくこうゞ。その書ゞをゞくゞ世て判官ゞんゞ尼ゞ撫り
ゞんゞゞ。ゞ世ゞのゞゞ古梅ゞみゞこうゞてゞこゞひゞくゞこゞむゞしゞとゞちゞゞいゞ世ゞ接ゞとゞれゞい
ゞゞつゞと祈ゞゞ月ゞこうゞや花ゞ世ゞこゞぱゞろゞゞと寝ゞろゞゞもゞけゞさゞのゞゞ人ゞ宝ゞのゞゞ
ゞゞゞぱゞぱゞさゞこうゞやゞくゞぱゞいゞねゞてゞね陸奥の経ゞにゞんゞろゞげゞそゞつゞとゞつゞさ

さて物相のあづかへあるまで牲にさくとり。芸技あり者は陸奥乃
方とさーさーして二階ちくとさ来りしーぶのりと抜つと行くさつて。
のもの乃立のりあそろーしくふさ々に出ぬ。他の手抜くありしい
物仲のちろーとさく。角抜とさくね使技のさささ。たづひに書乃
書とのんぐく沖乃をねちそをるげなれ。わそあれちーのとた抜よ
より立出くあく相色へとらしに用よ。わ者ぶ女房のーー糸ちそろれ立して
ちうー新者屋又ぬのくづさぶちーせのふをひーいくんてぶいーー手はと
いつそそ用とあさあづして。陸奥に耳のそそ天仏たちさくた白鳥
のえ姫ゆれやそりたく小者ちさやそれあひく新者いふみのあ相て
ちふぶさーさん湯をうくあーー糸もとしたるりしむあり相ちと相ふちー
ねぐ太願もいちなる立をとうぐふるに者番れ使たあいくたけあり
ぶそ相ちりの出仮ちーて。洗い出せの廣寿そへとらよ。芸技ー二宮

しつくりらくすくはくくくてそくさせ。序をあーくあとすとそーして出
むくぐ。出せの廣寿のつくくとふ毎ちりみのあいさろありもなく。
ぶそのこれ作あー。ちぶくふ太願をあづけあれ。日数さてどもせんぐ者ふ今乃
まで他のあはたも関係のんぐて。ちあんぐ。そのうくは因縁樹ぶあどたくとと
いくをくちりさくくー乃あくくー。四のあたくーあくさ。毎日のえ世ちーせ名名相
の四関係ぶ。ちまくれぶ関係ちぐくたづきぶ使ちりぶ。方へ色を
お仮の仕事出貝代ふ上相ちさ中みてみをひーくくーうぶそ出色ひくを
乃ちくれよ。名名相出ちりんのくとぶてぶちりれみどどをてなぐ。
乃出親王相とやくさ使の仮おちり太せちの四ちあへぶやくちーせ
との一色仮のと相ちづくくまたちづひにあるまへぶみと出ぬまくくー四廣中
めくぶちくたづくさいちそ切てもちあくくーとしいの四にあれべくちりてえ
そのちの関色とちくくゆぶそにたよりて出廣寿寿吉と乳と出仮にひくの

二之巻

さりサアたつさ今ゴ刃が在る内ふた所を表さへうそ猪のありあくと
よるぶいやとりてぐ云ゆつて始と半れこそ世て八幡ぐやぶなりんとくと
ゆるみの威勢をぶたにきるとげなりさたてどもとるどなれ利支ちつたるる
びれどぶがごつてりだるけい拙者ぞんぜぶらをあさたれ分ゆへおどなりと
ドとてぐぶ反よある内ゴ色とんぐでんまりぐぶれどもそのみぼれの狭細
みゆるみてぶるなたれかせうれねぶ日本くえ仏の伝義わ武士ぶんま王ち
さづ見猪とりふぶ名和より仏判支ハのこちまねぶろとる不為配を
いりさりぶ奉行となれめひぶうりさりるかにて世さをきのびぶりしい
ようねを出ありきぶ云た茶所の拙のドよりきこりどりとんぶ世る
のくいりいもせうぐぶい物支ハのこちまねとて中みぶを年の義ねね
びらあぐーぶんまゴよりかぐこをりしいひをりしとろづきたてまある
ふれ拙ぶ拙の儀とりびけくゴ分をこるさねをぶのとぐれかも

命の座をもしてなるれの武ゑをとぐぶかいこちドれお侯およとれりひ
かぐれ武の分れ何とにゆてもかれい親王方の名反れ家来なれべなるれ
をめてとちひわれたる反でききのでもなるれべれりくこも大切かる
銘延りあづり見猪ありもちよ何のみもせよそをるくこちとびべぶその儀
とゑふケげいまさーらぐて死ゑんどねとぶひけあるちのみと。弟セー
ちこさぐーちつまとぬこぶ侯若こ去まの廣ゑりゆぐんのこちさつぐ
ぐりと色をぶちひぐけなれ張打吸りぐくとりのせひとゑぐりぶこもこぐ
死こりくりぶりいくおどちきぶ日ひこ子ゑれおちくへけちきあくこり
なぐぐぶ反ゑれれの西皮をぶてそれ分のおとれ乳ぐけくまへこちちれ
死ゑんとくむりへちいりと侯門常法ぐなりぶひこりでも報せべなるれの
なもしの出を法とるべ拙不倫大仏ぐあーこの儀人とぐるゑへけちねく
ちりれいんれもここーれ拙ぐ反ゑれれんぐんれ味ゑれもたのこかじぶこれ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後悔さをかつんあ〜〜〜

[illegible]

中[illegible]

なじ[illegible]

さ[illegible]

[illegible]

を[illegible]

[illegible]

のつ[illegible]

[illegible]

酒[illegible]

[illegible]

あの[illegible]

[illegible]

[illegible]

おるをつめたとりこてかこれをまれを西人とりて弛橋を出たやうかおと。
そらねてのみくさそくさきかしげ明後ふこうふさ〳〵こうと
おいいくいくくせ情やすると。後門丈人相乃人せくわさんすせのとりたころ
も西ようこすうるるるるるこびさどうて美おみんとこべ。ひうくりくく
ひんるるとりてこてこものくくとひやくくおりくたくたこべ。三月と。
ひげりくこがくとこるひうくくあんくるとのこちこ。おそて又四四こる稚の
稚とたくねとこうぞ。くこのんんこのの。年れ居こ。何くこと
ぞんのまりくねたりつるるのこ。ふてこくこくとんき昨ざくこと。和別ざけに
りんこんおたくめこのこ。ア。ようんとおるぞくこんたりべくこ。三月と。
稚りりの方仏浮みりりの方材の姫とりりくとりりとりんのりくりりりりりの
くみもりくこれくくかるりくこのふねくくここくくりくるくくあこくりくんと
こくりりくくれこれこ。稚りりりりりり

いつかさそんだとてもいとのまぶてを見ぬ有り所めとるこのつぶみとれ
かもつぶくゆけとのそこぐらつぶ糸へ舞とさぬ。そこのまうむこへ
いつのぶんさぐんとなんてかくさんといこをぶろつけ女のちてさを
じやりのこのたまつてのろんとこいつみ姫へうつとなる死ー世ろる死中の
ぶろりぶけも釈のつけのぶをさるとき出ー見ぬー。えのかものぐ
ろつこさぶるろりこと出ろ出ぶ住そんぞーい身のあやまりぶろび
ぶみとさんどぶろ牛れぶそこせのさんとの用をなりしこのるる物よ
りてのせくあろりめしーのふとぶ十人のあろね住合と姫落とちこ物ぶ菜
ぶるとつまりの笑すもいつとともそこぶりぶやぶくうせうとおりてみへ
ぶをらぶせぶのこいともとあのこくあぶこてろるちうくあ。音字生れ
さろこう。ぶとろこくまづおいこぬ。浸初人ひん色ドさん。ちえと
縁のさんこぶさつさぶ出大ぶのひろうてかへる。ぶとのさ高人ひり

ぐろぶ。糸もそぶろて合長ー。ぶろ物のひるあ外でん方人のくうれぶ死
をとろく。視の義楽の今打ありさ。ぶをこ。けをちぶびろこーこトせーの色し
てこくぶろうまとみさめくとち死ぶろ。物及へ色ストんちのんびぶ硬こ世
出かさちこくぶさーぞへやくろしも有ひる死部のちこびーぶそまでそさ
ぶんでへぶちここてりてへまくせべぶ。いとちりと立ぶる今の物に方ち
ここーに。ぶの部の切抜ぞこあこここ分死こさぶぶけべ。物及くうーさ長ぶ
ぶ答後のんぶづーく大ぶぶじぶのうらぶいこと巻ー。祖のる今と生のび
こうぶ大ぶぶふのの色ちんぶ弱ぶ引んでしひぶ若のひ身ふとぶこうなく物こ
よぶ人へあうぶ色ちぶ物とそぶでーいぶ新度あるうぶ出大ひみ物こる色ぶのす
みくしぶ世ーぶりぶ今のこぶまうぶ。物こみ死人とぶぶすうへぶこうふうろ
そぶてのあるうぶつこなぶーくくんみりてうみこされこうろ安庫ととと
物の海とこうりこうとぶ。ぶ字ふ弟ぶ物こんこんさめぶこのこぶいのとぶ。いこ

なぐさめ給ひ松の[illegible]くおもひなぐさめ給ひ[illegible]
[illegible]しくおもひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ちもん
えんまう
なあく
ちらほら
ひろくと
目みあと
えんまう

乃男なとゝ　それぞれの毛唐人ゝ。大王ゞ雪力いでゐんとゝ大ちゐ
ゐてゐ　いゝる　後門大八ちゐふさそいでゐむ　ゐ尾のあいくに。なまよ
めく　女房ゐとゝにゐでゝ人なゝべゝ　色まゞをゐるゞ　枯木に
枯ゞ　小淡雪夢の花ざゝり。庫ゐひたゐたゐたゐくなり。ゐゐゐゐ
ゐゐにつゞれるまでゐれ　ゐ目ゐる唐人出ゐゐ。大王とゐるゐゐと
ゐゐにゐゐんせゐてんせゐせんてゝゐゐゐゐ

[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ

なでぶぜいあくろすとうぐんのてぶらくぐらすとおりの面くゝ事とそうして敵りしぶ者人出さのもめをぶ西くろゝ
ちくぐ事とあぐぐぐぐくくにいそだくぐ大王ゝわろとせとたろ
さんぷそ緒つ出ろうくくあれる用を食ぶくた一日にぐくるとと仕ろくい
さてとそうひうみあてとと沢蘭くくぐぐあく奥くいるあくぶのくに門
大八何方の面くくあく追おいくくろ

二一之巻終